

アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS
Spring 2016

No.
128



おかげさまで
SEKISHO ART MUSEUM
The 15th ANNIVERSARY 開館15周年

美の信仰者 石本正

— 美を求め続けた画家の生涯 —



「浄心」1988（昭和63）年

現在、開館十五周年を記念する最初の展覧会として、企画展「美の信仰者 石本正」を開催しています。

七十五年にも及ぶ画家人生において、舞妓や裸婦、花、鳥、風景など多岐にわたる対象を描きながら、世事に捉われることなく独自の『美』を求める姿勢を貫き通した画家・石本正。胸を締め付けるほどの感動を与えてくれる『美』へ近づこうとする情熱。それが、彼の創作姿勢の根底にあるものでした。

多くの人々の心に感動を与えた、華麗で情念的で、独特の生命力を宿す石本芸術が、永きにわたる画業の中でどのように形成され変化していったのか。この度の展覧会は、若い頃から晩年までの代表作をたどりながら、まるで信仰するかのように求め続けた、『美』に対する熱い想いと創作姿勢にスポットをあてた内容となっています。ここでは、展示作品の中からいくつかを取り上げてご紹介します。

2016年6月24日〔金〕まで

【開館時間】午前9時～午後5時 【休館日】月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）

【料金】◎一般600円（団体500円）◎高校・大学生300円（団体240円）◎小・中学生200円（団体160円）

※（ ）内は20名以上の団体料金 ※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日に家族で来館された高校生以下の観覧無料

主 催：浜田市立石正美術館 浜田市 浜田市教育委員会 公益財団法人浜田市教育文化振興事業団

— 古典美と現代の生活感情の調和を求めて —

石本正が画家として京都画壇に産声をあげたのは、終戦後、様々な社会環境や価値観が変わつてゆく激動の時代でした。日本画壇においても、それまでの伝統を留めた封建的な体質から抜け出そうと、多くの画家が新しい表現を求めて模索し始めました。アメリカや西洋の現代美術の波に押され、日本の古典芸術がおろそかにされることもあつた中で、若き石本は、日本古来の文化が持つさまざまな美を大切にしながら、現代の生活感情と調和させて、いまを生きる自分にしか描くことの出来ない新たな日本画を生み出すことを目標としていました。



「五条坂（草稿）」1950（昭和 25）年

石本が「手放せない絵」としてずっと大切にしていた『五条坂風景』の下図。たそがれの光に浮かび出た京都の古い家並みが、線と面だけで構成されています。

古来の日本絵画の素晴らしいところは、線と面だけで構成される平面的な画面によって、視覚の向う側に隠されている形態や色彩を掴もうとするところであり、そこに写実表現では成し得ないリアリティーが生まれると画家は語っています。作品を発表した当初は、常に新しい表現をという時代背景もあって“古くさい絵”などと評価されたりもしましたが、彼にとって本当に描きたいものを表現した、若き時代の大好きな作品でした。

◀「静物」1952（昭和 27）年

この頃の石本は、ヨーロッパのロマネスク時代に描かれた壁画を画集で見て、その生命感あふれる表現に魅了されました。ルネサンス以降の写実的できらびやかな絵画表現とは異なり、細部を簡略化した素朴な表現で生き生きと描かれたこれらの絵画に、絵に向かう画家の純粋な心を感じたためでした。そしてその太い線や、形の簡略化にヒントを得て、表現を直接作品に取り入れるようになりました。

この作品は、箔を貼った地に岩絵具で彩色し、片ばかり^{※1}による隈取りで人物の丸みを表現するなど、日本画の伝統的な書き方を用いて描かれています。しかし、ロマネスクの影響とみられる形の簡略化に加え、身体の前面と背面を同時に見る多角的な視点で人物の立体感をとらえようとしているところなどに、新しい表現を求めていた若き画家の意欲的な姿勢が感じられます。



CHECK! ※1

「片ばかり」は、筆で描いた線の片側だけをぼかす技法です。石本作品には、年代を問わず比較的よく使われています。



「野鳥」1956（昭和 31）年



「フラミンゴ」1967（昭和 42）年



「三人の舞妓」1964（昭和 39）年



「姉妹」1978（昭和53）年

この頃の裸婦の特徴は、舞妓姿でもないのに女性の首から上に白粉が施されていることです。過去に発表された舞妓裸婦の名残ともいえるでしょうか。白粉で美しく化粧した顔と、血の通った肌を思わせる肉体との対比が醸し出す非現実感は、描かれた女性たちの色香を一層強く漂わせています。また日本の白粉と、石本が憧れ続けたボッティチエリの「春」の三美神がまとうような肌が透ける薄衣とのアンバランスさもまた、本作のなんともいえない情感につながっているようです。これら「白粉の裸婦」は、1980年代中ごろから次第に見られなくなっていました。

「：作家自身の目で古典の素晴らしさに接し、その感動を自己流に生かすこと。
これが、今度のイタリア旅行で受けた衝撃だった」

石本正 京都新聞（昭和四十五年二月二十七日）「名作とわたし⑦グイドリッヂオ将軍の騎馬像」より

一九七〇年代になると、画風に新たな変化がみられるようになります。特に女性の表情や透き通るような肌の表現に、これまでとは違う妖艶さや神秘性が一層加わったように感じられるのです。これは花や風景にも共通していて、画家が対象を見つめる視線に何らかの変化があったのではないかと思わせます。この頃に発表された作品について、親交のあった哲学者・梅原猛氏は「華麗さに厚みと重厚さが加わった」と評しています。

この変化のきっかけのひとつが、若い頃から憧れ続けたヨーロッパを訪れ、中世美術に直にふれる感

動を得たことではないかと考えられます。昭和三十九年、四十四歳のときに初めてイタリアへ行き、その後昭和四十四年から平成二年まで十一年にわたる旅行でヨーロッパ各地を巡り、中世美術を見て回ったのです。特に実際に目にするフレスコ画の繊細な表現や美しい色彩は、彼の心に衝撃を与えるものでした。これ以降の作品で、いつそうのびやかに自由に、華麗な石本芸術が花開いていきました。それはまるで心を感動させる全てのものを賛美し、絵を描く喜びを謳いあげているように見えます。



「黎明」1993（平成5）年



「牡丹」1999（平成11）年

美の信仰者 III 女体賛美

一 石本正の裸婦デッサン

女性は石本にとつて聖なるもの、美しいものの象徴です。女性を描いている時は本当に楽しく、絵書きになつて良かったと心から思うひと時だったと語っています。モデルが見せるふとした瞬間の美しさに感動し、その美しさを自分のものにするべく描き続け、何千枚にも上るデッサンを残しました。手の指先のまるで桜貝のような小さな爪の可愛らしさ、美しい足の形、目の表情の細やかな表現、あるいは乳首や後れ毛の描写。画家の眼を通して表現された彼女たちは、生身の女性を目の前にするよりも、女性の持つ様々な美を気づかせてくれます。

「裸婦」1986(昭和61)年
▼部分拡大



美の信仰者 IV 心おもむくままに

一 晩年の石本正一

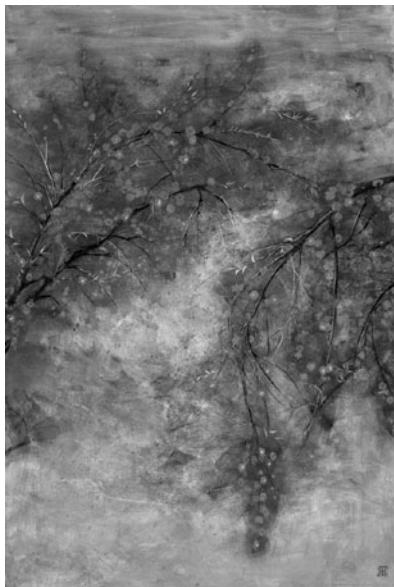
彼は若い頃、遅筆として有名でした。それは一つの作品を納得いくまで手を入れ続けるからで、手際よくさりと仕上げるタイプの画家ではありませんでした。

それが、八十歳を超えた頃から、作品の数が年を追うごとに増えています。最も多い年では、九十二歳の時に五十点近くという驚異的な数の作品を描き上げています。それもほとんどが五十号を超える大作でした。この頃、画家は「次から次に描きたいものが浮かんできて、忙しくてしょうがない」とくり返し口にしました。その言葉のとおり、描きかけのパネルを何枚もアトリエに並べて、多くの作品を並行して描き続けました。若い頃こだわり続けた日本画絵具での表現に、ジャンルの違うパステルや色鉛筆をも併用しながら、何かに衝き動かされれるかのように次々と描き上げたのです。

最晩年、彼は次第にアトリエに入つても絵を描かない時間を多く過ごすようになりました。その様子はまるで、描きたいものを全て描きつくしたかのようでもありますから、反面、気力を絞り出すように描かれた作品はますます自由に、命の輝きを感じさせるものとなっていました。

晩年に近い頃の作品はまさに、美の中に生き、最後まで筆を止めることなく、絵を描くよろこびを謳い続けた画家の想いの結晶とも言えるでしょう。

ぜひ会場で、「美」を求め歩み続けた石本正の世界をご堪能ください。



「しだれ桃」2012(平成24)年

学芸員の目

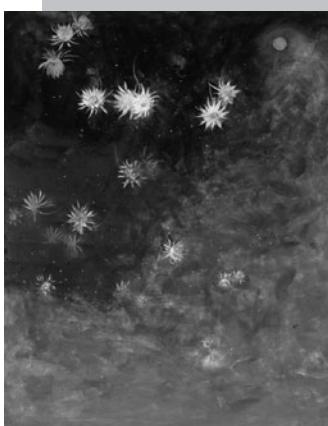
ふたつの月下美人

平成二十四年と平成二十五年、石本先生は一点の月下美人の絵を描きました。これらは、以前にスケッチしていたものの、作品にした事のなかつたもので、たった一夜しか咲かぬこの花の命を愛おしく思い描き上げたものです。

最初の月下美人が描かれた年は、晩年の中でも最も多い四十八点もの作品を描き上げた年でもありました。右上に見える大きな月のもと、星空を背景に浮かび上がる花は、花弁もしっかりと描かれており、今を盛りと咲く様子が感じられます。

いっぽう翌年の平成二十五年は、仕上げた作品点数も三分の一ほどに激減し、平成二十一年から毎年行っていた新作展の開催が最も危ぶまれた年でした。この年の月下美人は、上から下に向かって次第に消えゆくようにならぶ表現されています。この様子は、まるで大気圏ではかなぐく燃え散る流星のようにも感じられます。

最晩年、画家が体調にも大きく左右されたこの時期、同じテーマで描かれた作品を並べてみると、画家自身さえも意識しているなかつたであろう心の一面が読み取れるようです。(横山)



左「月火美人」2013(平成25)年／右「星空の月火美人」2012(平成24)年
※石本先生はタイトルをつける際あえて「月火美人」しています。炎のようないばらの形から着想を得たからかもしれません。



2016.7→2017.3

企画展 本館

石本正が愛した故郷

2016年7月2日㊱▶9月25日㊱

美術館開館以降、故郷の「石州和紙」に改めて出会った石本正。彼はその独特的風合を気に入り、イマジネーションを刺激する和紙として高く評価し使い続けてきた。この石州和紙を土台に、故郷をテーマとする作品も多く生まれた。これら故郷の紙に描かれた作品の数々とともに、画家が作品に込めた想いを振り返る。



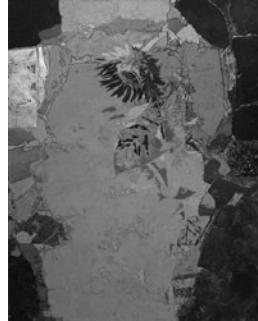
左「蟠龍湖の女」2001(平成13)年／右「薺」2006(平成18)年

企画展 新館

第6回 石州和紙に描いた日本画展

2016年

7月2日㊱▶8月21日㊱



石本正が推薦した画家を中心とする24名(予定)が、当地の伝統工芸品である「石州和紙」に描いた新作を一堂に公開する展覧会。石州和紙を基調とした作家の新たな試みを楽しみながら、和紙の魅力的な一面を感じることができる。

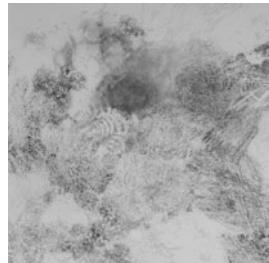
雲丹亀利彦「刻」2015(平成27)年
(第5回石州和紙に描いた日本画展・出品作品)

企画展 新館

第2回 石本正日本画大賞展

2016年8月30日㊱▶9月25日㊱

主催:芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館

小谷里奈「水際立つ」
(第1回石本正日本画大賞展・大賞作品)

永きにわたる画業の中で、後進の育成にも心を注ぎ、多くの画家を現代日本画界へ送り出してきた石本正。その功績を顕彰し、未来を担う美大生の創作活動を奨励する展覧会。全国美術大学より推薦された、日本画を専攻する学生の優秀作品が並ぶ。

特別展

没後一年回顧展

石本正 魂の軌跡

2016年10月8日㊱▶2017年3月12日㊱

前期 2016年10月8日㊱▶12月23日㊱

後期 2017年1月2日㊱▶3月12日㊱

※前期・後期で展示作品が変わります。
※展示作品は変更になる場合があります。



左「舞妓」1968(昭和43)年 右「舞妓」1966(昭和41)年 ※後期展示予定

「風景」1948(昭和23年)
京都市美術館蔵 ※後期展示予定

生涯、地位や名誉を求めることなく、ただひたすらに独自の芸術を追求する姿勢を貫いた画家・石本正。青年時代から晩年まで、画業の全貌を代表作の数々と共に時系列に辿る。

同時に絶筆「舞妓」をはじめとする最晩年の新作も展示。最後の瞬間まで絵ひと筋に生きた画家の生涯を追う、没後初の回顧展。



さて、スケッチ会の前日、西久松先生と一緒に大平桜の下見に行つたときはまだ一分咲きでした。当日の朝も少しひんやりとしていて、この一日の中で少しでも咲いてくれたらいいなあと祈りつつスケッチ会が始まりました。各自スケッチに入る前に、西久松先生に描く時のポイントや心構えなどを指導して頂きました。先生は、一枚のスケッチにかける時間は長くても

三月に入った頃からはずっと桜の花芽や気候の様子ばかり気になる毎日を過ぎました。

さて、スケッチ会の前日、西久松先生と一緒に大平桜の下見に行つたときはまだ一分咲きでした。当日の朝も少しひんやりとしていて、この一日の中で少しでも咲いてくれたらいいなあと祈りつつスケッチ会が始まりました。各自スケッチに入る前に、西久松先生に描く時のポイントや心構えなどを指導して頂きました。先生は、一枚のスケッチにかける時間は長くても

三時間ほどだそうです。でも、ひとつのもチーフを一回のスケッチで終わらせるのではなく、何年にもわたって何回も通つて、何枚も描かれるそうです。最初のスケッチはどうしても硬くなってしまうため、二枚目以降のスケッチが好きだ



とおっしゃっていました。この日、桜は咲いていないけど、その方が幹の様子が良く見えるので、今回は枝振りをしっかりと描いておいて、また花が咲いたころにまた描きに来てくださいと語りました。

昨年の風景スケッチ会の時は、描かれる先生の手の動きを見逃すまいと、常に先生の後ろに入だかりがでているのが印象的でしたが、今回は皆さんそれぞれ座った場所からほんとうに動くことなく、目の前の大平桜をいかに描くかと夢中になつておられました。

最後に皆さんのが描かれたスケッチを並べて講評会を行いました。どの作品も大平桜らしい生命感があらわれていて、皆さんがそれぞれ自身の絵を通して、樹齢約六七年といわれる大平桜としっかりと心の対話をされました」とが伝わってきました。

この日は、太陽が高くなるにつれてどんどん気温も上がつていき、お昼ころには上着を脱がなくてはならぬほど暖かくなりました。花もみるみる咲き進んで、スケッチ会が終わる夕方には、満開の様子が想像できるくらいに全体的に白い花を咲かせていました。少し樹が弱っているのか、今年も花付きは少なかつたですが、西久松先生や受講生の皆さんと、毎年懸命に花を咲かせてくれる大平桜を描く時間を共有することができ、本当に充実した一日となりました。(横山)

石本正先生の「絵を描くよろこびを伝えたい」という思いのもと、吉正美術館開館時に生まれ、これまで続けてきた『石本正絵画教室』が、この度50回の節目を迎える。「気軽に楽しんで」という先生の絵に対する姿勢や喜びを、参加者の皆様と共に体感しませんか。絵を描くのが好きという方はもちろん、初心者の方も大歓迎です。

今回は、講師として京都市立芸術大学において石本先生に師事し、以後、大学および創画会などでも制作に励んでこられた画家・吉川弘先生をお招きします。また今回の絵画教室にあわせ、14日午前中には吉川先生による特別講演会も開催致します。ご自身の現在の創作を通して、その根底に流れれる石本先生に学んだ姿勢などをお話し頂きます。

ぜひお誘い合わせの上、ご参加ください。

特別講演会
「心の旅」
5/14(土) 10:00 ~ 11:30

会場：石正美術館創作室
※講演会のみの参加は無料です。

【講師】
吉川 弘 先生
日本画家
京都造形芸術大学 教授
創画会会員

第50回 石本正絵画教室 「裸婦デッサン会」

「絵を描くには、裸婦デッサンから始めるのが、一番いい。」 — 石本 正

平成28年

5月14日(土)・15日(日)

【受講料】 7,500円

【会場】 浜田市立石正美術館

【定員】 30名 (定員に達し次第締め切らせていただきます)

※画材は各自デッサン用の画材をご用意ください。

木炭・鉛筆・パステル・色鉛筆など。

※油彩・水彩・墨汁などは使用できません。

※当日、画材・画用紙の販売を予定しています。

お問い合わせ・申込み TEL 0855-32-4388

ものづくりを楽しむすべての大人の方へ！

【月イチ創作教室】

おとなのアートサロン

毎月1回 午後1時～3時 石正美術館 創作室

教室予定(5～9月)

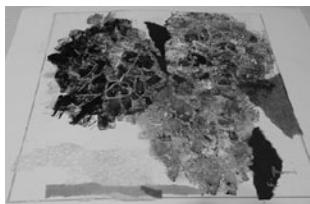
5/26
(木)

臨床美術

「スタンピングで紫陽花を描こう」

講師：島根臨床美術の会

参加費2,000円 定員20名（要予約）



発泡スチロールスタンプを使い、水滴をいっぱい浴びて色鮮やかな花弁を揺らす紫陽花を描きます。

「スイーツ粘土・サワデーデコ」

6/18
(土)

講師：琴野和世さん（アトリエカロス）

参加費1,500円 定員20名（要予約）



芳香剤でおなじみの「サワデー」を軽量粘土や樹脂粘土で素敵にアレンジ♪ご自宅で楽しんだり、親しい方への贈り物にしたり使い方はあなた次第。手がよごれにくい粘土を使うので楽しく創作できます。

7/16
(土)

「絵手紙教室～暑中見舞い～」

講師：坂口みどりさん（日本絵手紙協会公認講師）

参加費300円 定員20名（要予約）

開催中のギャラリー出品作家による創作教室。夏らしい絵に一言を添えて、暑中見舞いを書いてみませんか？筆や顔彩、はがき等はこちらでご用意します。



お申込み・お問い合わせ

★各回常時ご予約受付中！

浜田市立石正美術館 TEL 0855-32-4388

様々な色や形を考えながら創作することで、手と頭の運動にもなり、ものを作る楽しさに思わず心もホッとほぐせる。楽しくあしゃべりしながらの制作で創作の喜びを分かち合う。

そんなサロンのような創作教室を毎月1回石正美術館で開催します！来られる時だけ、興味のあるテーマの時だけのご参加もお待ちしています。どうぞお誘いあわせのうえ、お気軽に越しください。

「臨床美術」とは

独自のアートプログラムに沿って創作活動を行うことにより脳が活性化し、認知症の症状が改善されることを目的として開発されました。臨床美術士が一人ひとりの参加者にそった働きかけをすることで、その人の意欲と潜在能力を引き出していく。認知症の症状改善を目指して始まりましたが、現在では、介護予防事業など認知症の予防・発達が気になる子どもへのケア・小学校の授業「総合的な学習の時間」・社会人向けのメンタルヘルスケアなど多方面で取り入れられ、いきいきと人生を送りたいと願うすべての人への希望をもたらしています。



（日本臨床美術協会ホームページより）

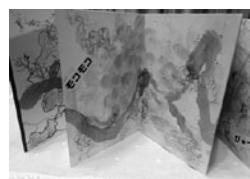
8/21
(日)

臨床美術「絵本パレード」

講師：島根臨床美術の会

参加費2,000円

定員20名（要予約）



ページ毎にテーマや素材を変えながら、オリジナル絵本を作ります。

9/8
(木)

「石と金箔でオリジナル文鎮づくり」

（展覧会観覧券付き）

講師：石正美術館 学芸員 上田優里

参加費1,000円（予定）

定員15名（要予約）



お気に入りの石に金箔を貼って、自分だけのペーパーウェイト（文鎮）を作りませんか？また、開催中の展覧会の作品を観ながら箔についてお話しします。

※手の平サイズの石1～2個をお持ちください。

石本先生の大好きな花を、みんなで一緒に植えますよ～！ そして

「アジサイを植えましょう」

レポート
石本先生が絵に描かれた花を植える『やすらぎの中庭計画』。三月五日（土）に、昨年度最後となる活動が行われました。花ボランティアとして集まつて下さった方は二十一名。たくさんの方のご協力をいたしました。無事に四十本のアジサイの苗を植えることができました。本当にありがとうございました。

今回も、三隅町で造園業をいとむ白須信男さんに、アジサイの育て方のご指導をいただきながら作業を進めました。事前に準備していただいた深さ約三十センチくらいの穴に、真砂土と栄養のある土をまぜた土を入れ、少し根をほぐしたアジサイの苗を植えてやさしく土をかけてやり、仕上げにたっぷりと水をやります。四十本も植えるとなると、ずいぶん時間がかかるので心配していましたが、二十一名の力のおかげで約三十分ほどで全ての作業が終わってしまいました。



3月5日（土）の作業の様子



「舞妓」1960（昭和35）年 ※現在展示中
左の舞妓さんが着ている着物の柄がアジサイ。

あとは、秋に植えた牡丹の周りに雑草が生えていたので、この除草もして頂き、周辺がとてもきれいになつてアジサイも牡丹も心なしか嬉しそうに見えました。石本先生の作品の中のアジサイは、舞妓さんの着物の柄としてよく登場します。先生は、モデルをしてくれた女性たちに絵の中で着物をプレゼントしてあげるという気持ちで、全ての着物や帯の柄を自分でデザインして心を込めて描いていました。その柄の中には、桜や朝顔、萩、菊など、季節の花がモチーフとなつたものが多くあります。中でもアジサイの花は一九六〇年代の複数の舞妓作品の中に登場していて、当時のお氣に入りのモチーフだったのかなと思わせます。ピンクや水色・紫などの淡い色の変化がとても繊細に表現されていて、舞妓さんをいつそう魅力的にひきたてています。今回の植栽ではそのイメージを大切に、青系の花を咲かせるアジサイを中心に植えました。



現在（4月中旬）の牡丹の様子。
つぼみがふくらんで、もうすぐ咲きそうです！

四月中旬の現在、牡丹は全ての株につぼみがつき、ふくらんで大きくなっています。先端が少しぼんやりしているものもあって、それぞれの花の色も分かれるようになってきました。アジサイの苗は、植えて一ヶ月ほどしかたっていないのに、綺麗な萌黄色の新芽がすくすくと大きく育っています。しっかりと成長して毎日違う表情を見せてくれる様子は、植物が命を持つ存在であるという当たり前のことを、改めて私たちに教えてくれているようです。美術館に根付いた新たな命を、あたたかく見守つていただけると嬉しいです。

この計画は、無二荘牡丹園の花を譲り受けた今秋まで続きます。十月に植樹祭を行う予定で計画を進めていますので、ぜひ楽しみにしていてください。（横山）

創作教室

石州和紙で
こいのぼりを
つくろう



4.30 土 13時～15時

参加費 300円

石正美術館のGW恒例、
毎年人気のワークショップ
です。石州和紙をつかって、
自分だけの可愛いこいのぼり
を作りましょう。

母の日ワークショップ ホットケーキの小物ケースをつくろう！

講師：琴野和世さん（アトリエカロス）

市販のハンドクリームケースにリボンを巻いて、上にホットケーキなどの可愛いスイーツ粘土をトッピング。大切な人への日頃の感謝の気持ちをこめて作りましょう♪



5.3 火・祝 13時～15時 参加費 500円 要申込み【定員】20名

石正美術館の美術講座 受講生募集！

申込方法 所定の「受講申込書」とともに受講料（6か月分）
を一括前納してください。詳しくはお問い合わせください。

洋画教室

講師 佐田 尚穂（洋画家・二紀会委員・島根洋画会会員）

第2日曜日 9:30～16:00



定員15名

受講料 10,000円

4月～9月（全6回）

講師作品

花や静物をモチーフに油絵・水彩の表現を学びます。



講座期間 前期

（平成28年4月～平成28年9月）

- 教室受講日には展示室が鑑賞できます！
- 美術館主催の講演会を無料で受講！（有料の講演会）

平成28年春からの美術講座受講生を募集します。芸術の面白さを「より深く」「より楽しく」学べる講座です。

始める。
春から、

日本画教室

講師 平坂 常弘（石正美術館館長）

第4日曜日 9:30～16:00

定員20名

受講料 10,000円

4月～9月（全6回）

日本画の作品制作を通して表現や技法を学びます。



島根学

講師 神 英雄（歴史地理学研究者・加納美術館館長）

第4土曜日 10:00～11:30

定員30名

受講料 6,000円

4月～9月（全6回）

古代から現代までの島根の様々な事象を探りあげて話します。歴史・芸術から食の話まで楽しみながら学べます。遠足や修学旅行もあります。



※「初めての日本画」の募集は〆切りました。

SCHEDULE 石正美術館スケジュール

本館 展示室	新館 展示室	ギャラリー 【入場無料】	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
企画展 美の信仰者 石本正 —美を求め続けた画家の生涯—		<p>4.2 土 ↓ 4.22 金</p> <p>石見の春展</p> <p>最終日 4.22 は 15 時まで</p> <p>4.23 土 ↓ 5.6 金</p> <p>TODOKE! for You. (君に届け) 展 (仮)</p> <p>主催: masuda art planets (仮)</p> <p>最終日 5.6 は 15 時まで</p> <p>5.7 土 ↓ 5.13 金</p> <p>写真と絵手紙展</p> <p>主催: 鎌手カメラ同好会</p> <p>最終日 5.13 は 15 時まで</p> <p>5.14 土 ↓ 6.3 金</p> <p>平成 27 年度 石正美術館絵画教室 作品展【前期】</p> <p>洋画教室・石正絵画教室・ 最前線作家による創作教室</p> <p>最終日 6.3 は 15 時まで</p> <p>6.4 土 ↓ 6.24 金</p> <p>平成 27 年度 石正美術館絵画教室 作品展【後期】</p> <p>日本画教室・初めての日本画</p> <p>最終日 6.24 は 15 時まで</p>	<p>4.30 土 13 時～15 時</p> <p>「石州和紙で こいのぼりをつくろう」</p> <p>参加費</p> <p>5.3 火・祝 13 時～15 時</p> <p>母の日ワークショップ 「ホットケーキの 小物ケースをつくろう！」</p> <p>要申込み</p> <p>講師: 琴野和世 (アトリエカロス)</p> <p>5.14 土 10 時 ～11 時 30 分</p> <p>特別講演会「心の旅」</p> <p>講師: 吉川弘 (創画会会員・京都造形芸術大学教授)</p> <p>5.14 土 5.15 日</p> <p>第 50 回 石本正絵画教室 「裸婦デッサン会」</p> <p>特別講師: 吉川弘 (創画会会員・京都造形芸術大学教授)</p> <p>5.26 木 13 時～15 時</p> <p>おとのアートサロン 臨床美術 「スタンピングで 紫陽花を描こう」</p> <p>要申込み</p> <p>講師: 島根臨床美術の会</p> <p>→ 詳細 8P</p> <p>6.18 土 13 時～15 時</p> <p>おとのアートサロン 「スイーツ粘土・ サワーデコ」</p> <p>要申込み</p> <p>講師: 琴野和世 (アトリエカロス)</p> <p>→ 詳細 8P</p>
		6.25 土 → 7.1 金	展示替え休館
			CLOSED
		<p>7.2 土 ↓ 7.10 日</p> <p>写真展 「池島」と「軍艦島」</p> <p>主催: 森圭一</p> <p>最終日 7.10 は 15 時まで</p> <p>7.13 水 ↓ 7.24 日</p> <p>絵手紙教室作品展 (仮)</p> <p>主催: 坂口みどり</p> <p>最終日 7.24 は 15 時まで</p> <p>7.26 火 ↓ 7.31 日</p> <p>野上正紘先生遺作展</p> <p>主催: 希風書室 (有志)</p> <p>最終日 7.31 は 15 時まで</p>	<p>7.9 土 7.10 日</p> <p>第 51 回 石本正絵画教室 (予定)</p> <p>参加費</p> <p>要申込み</p> <p>7.16 土 13 時～15 時</p> <p>おとのアートサロン 「絵手紙教室～暑中見舞い～」</p> <p>要申込み</p> <p>講師: 坂口みどり (日本絵手紙協会公認講師)</p> <p>→ 詳細 8P</p> <p>8.11 木・祝</p> <p>【午前の部】 10 時～11 時 30 分</p> <p>【午後の部】 13 時～14 時 30 分</p> <p>「太陽 de お絵かき」</p> <p>講師: イラストレーター KUBORIM (久保利美加)</p> <p>参加費</p> <p>要申込み</p>
企画展 石本正が愛した故郷	企画展 第6回 石州和紙に 描いた日本画展		
7.2 土 ↓ 9.25 日	7.2 土 ↓ 8.21 日		

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしています。

色々な人と
知り合いに
なれた！

活動を通して 心が豊かになる



ポスター・チラシの発送

「ラベル貼り」「封入」など簡単な作業です。作業の候補日をメール等でお伝えします。

展示替え



「草取り」から「植栽」まで幅広く行います。



講習会・研修旅行

サポーター向けの
勉強会、講習会を開

催芸術に関する様々なことを学んでいただけます。

どうか皆さん之力をお貸しくださいー
できる限りをできるときに

- 創作活動

週末のイベント

石正美術館まつり

創作活動やイベン
トのお手伝い、準備
や片付けなど。

その他

● 外国語通訳・翻訳

● 手話

● くちぢり!!

● ポスター掲示

（Y） 三館の活動に深くご理解を頂いております皆様のおかげです。ありがとうございます。（YY）

▼4月に入り、中庭のしだれ桜が見頃を終えました。開館から15年、美術館を彩り続けてきた桜に今度は牡丹と紫陽花が仲間入りです。随時開花情報をホームページでお知らせしていきますのでどうぞお楽しみに！（Y）

石正美術館 ミュージアムニュース
アフロディシア

No.128
Spring 2016

平成 28 (2016) 年 4 月 22 日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589
TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389
E メール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

検索 

